

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	学年	第2学年	講座	
単位数	2単位	教科書	高校音楽Ⅱ 改訂版 Music View (教育出版)				
副教材							

学習目標	<p>1 芸術的な能力を伸ばし、美しいものに対する感性を高めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。</p> <p>2 音楽の諸活動をとおり創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高め、音楽を愛好する心情を養う。</p>
------	---

		学習計画及び内容		考査
1 学 期	4月	校歌	<ul style="list-style-type: none"> 校歌の歌唱を通して歌うことの喜びを味わうとともにしっかりとした発声の力を養う。 美しい詩の内容に応じた音楽の美しさにふれ、より深く心豊かな音楽を表現する。 リコーダーやキーボードの基本的な奏法を学び、簡易な楽器に触れることで演奏の喜びを知る。 楽器の持つ音色や和音の響きの美しさを味わう。 	活動の観察 実技テスト 自己評価
	5月	言葉と音楽		
	6月	器楽アンサンブル		
	7月			
2 学 期	8月	合唱とアンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で発表するために合唱や器楽の演奏技術を高める。 美しいハーモニーや響きのある歌声の心地よさを感じるとともに、リズムに乗って歌うことの楽しさを味わう。 キーボードを中心としたアンサンブルの練習を通し、一つの曲を完成させるためにはどのパートも必要であるということを実感する。 楽典についての知識を知る。 	活動の観察 実技テスト 自己評価
	9月			
	10月			
	11月			
	12月	創作		
3 学 期	1月	合唱	<ul style="list-style-type: none"> 音程についての学習を通してそれぞれの音と音の重なりによる響きの違いを理解する。 協和音と不協和音の響きの違いを感じ、それらの伴奏による効果を知る。 メロディーに対して伴奏を変えることによる曲想の変化に気づく。 卒業式に向けて心を込めて歌うということの大切さを知り、その姿勢を養う。 日本文化史の中の音楽の位置づけを学ぶ。 	活動の観察 実技テスト 自己評価
	2月			
	3月	日本音楽史		

学習の方法	1	表現活動では、歌唱（独唱・合唱）器楽アンサンブルに取り組む中で、個人の技術を高めるだけでなく、合わせて演奏する心地よさを味わい、共に完成させる喜びを知る。
	2	鑑賞では音楽史の学習を通して、名曲と言われ、聴き継がれている曲を知る。自分のお気に入りの曲を紹介し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。
	3	文化祭や卒業式での発表を通して、発表の喜びを知る。

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価の観点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを享受しながら、音楽表現を工夫し、表現糸を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に着け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを享受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

備考	
----	--